

課題研究（総合的な学習の時間）でのプレゼンテーション研究



を活用した授業実践とアクティブ・ラーニング

愛知県立中川商業高等学校 石川 紘基

1 はじめに

多くの商業高校では、総合的な学習の時間の代替として課題研究を実施している。本校の課題研究は、3年生の総合ビジネス科・情報処理科で3単位、国際ビジネス科は2単位で実施している。私は、総合ビジネス科で「プレゼンテーション研究講座」を担当している。授業内容として、見やすいPower Pointの作成方法や効果的なプレゼンテーション発表法について指導している。その成果として、生徒商業研究発表大会への出場や中学生体験入学での学校紹介をPower Pointでプレゼンテーションしている。

今回、NHK for School「昔話法廷」を活用した授業を実践しようとしたきっかけは、昨年度の放送教育研究大会でNHK for Schoolを活用した授業内容を先生方が発表されているのを拝見して、「なぜ小学生の頃はNHKの番組を授業中に見ていたのだろう。今でも内容を覚えているのは何故だろう。」と思い返して考えたことにある。常にNHKの番組を見ていたのであれば、おそらく現在のように内容を覚えていなかったであろう。普段の授業とは違い、テレビを見てから授業が始まる。テレビだから楽しい内容なのだろうと思い込み、真剣に楽しんで学んでいたのではないだろうか。「昔話法廷」は以前テレビで見たことがあり、高校生を対象にした内容に適していると感じたからである。

アクティブ・ラーニングについては、愛知県内の商業教員によって構成される商業経済部会にて3年間学んだ。アクティブ・ラーニングは、ただ単にグループワークをすれば良いわけではなく、生徒一人ひとりが参加し、よく考え、頭の中が能動的な状態になって効果を得ることができる。私は、NHK for School「昔話法廷」を活用して授業を実施することで、習熟度の高い学習に繋がるのではないかと仮定した。また、この教材は、特別活動・総合的な学習の時間・社会・国語にも活用可能であるとNHKから示されている。

2 研究のねらい

NHK for Schoolを活用することで、生徒の学習意欲が増すのではないか。選挙権が18歳以上となり、多くの場面で生徒に投票方法などについて説明されているが、20歳以上が対象となる裁判員制度について説明される機会が少ない。裁判員裁判を体験しながら課題研究の内容であるプレゼンテーション研究を実施する。具体的にはNHK for School「昔話法廷」に用意されている指導用資料・ワークシートを活用しながら

ら授業をする。ワークシートで完結するのではなく、その内容をPowerPointでまとめてプレゼンテーションさせる。全員のプレゼンテーション後、再度自分の判決を示して多数決で有罪か無罪か決める。最後にアンケートを実施して、裁判員制度の理解・PowerPoint・プレゼンテーションの作成が上手くできたかを確認する。

ねらいと展開
第1話「三匹のこぶた」裁判

本時のねらい
被告人のトン三郎が計画的犯行で有罪となるか、それとも正当防衛で無罪になるかを考える過程で、多角的・多面的な視点から考察し、根拠を持って討論し、公平公正な判断を行うことができる。

展開例(2時間の実践例、可能ならば2時間連続で実施する)
(1)1時間目:番組を視聴して証拠検討表を完成し、各自、有罪・無罪を考察する。
(2)2時間目:グループに分かれ、証拠検討表をもとに討論し、有罪・無罪を発表する。

時間目安	主な学習活動	指導上の留意点
6分	1 番組の前半(2分52秒まで)を視聴して、問題を把握する。(1時間目) ・理社、常設が裁判に参加する「裁判員裁判」が行われており「裁判員」の養成が実施される。 ・番組前半(2分52秒まで)を視聴する。 ○裁判の争点をまとめる。	・番組視聴後、「裁判員」として判決を考えてもらうことと指導する。 ・先入観を持つ可能性があるため、番組の内容を視聴前に把握し確認し、 ・視聴しながらかメモをとるよう指導する。
7分	・番組前半を視聴してつづメモを材料用して、トン三郎が犯したとされる罪の内身や、被告人と弁護人の主張を確認し、裁判の争点を整理する。	・教員が質問をしながら争点を整理する。 ・争点が「計画的におびき寄せ殺したのか(有罪)」それと「突如襲われ命を守るため殺したのか(正当防衛で無罪)」であることを確認させる。 ・黒板などで、空欄(資料としてアップしてある)を活用して整理してよい。
13分	2 番組の後半(2分52秒～15分)を視聴して、証拠や証言を把握する。(1時間目) ・多角的視点(2分52秒～15分まで)を視聴する。	・この法廷(番組)で見聞きした証拠や証言だけで判断することを確認させてから投票を再開する。 ・投票の前に、証拠や証言、その他気になったことをメモできるように再度指導する。

指導用資料

第1話「三匹のこぶた」裁判
証拠検討表

年 級 名 前

法廷で出た証拠や証言、自分の心に憑いたことが、有罪に動くか、無罪に動くか、まとめてみよう!
(注)有罪と無罪どちらにも動くか微妙な場合は、点線の付近になる

高
↑
低
↓
高

有罪

無罪

ワークシート

3 昔話法廷とは

「昔話法廷」は、なじみの深い昔話をモチーフにした「昔話の登場人物が訴えられたら？」という設定で作られている。検察官・弁護人・被告人・証人のやりとりを一人の裁判員の目線で描く法廷ドラマである。この番組の特徴は判決がでないこと。判決を下すのは、番組を見た生徒たちである。法廷でのやり取りを元に、それぞれが裁判員として判決を考える。そして議論をすることで、主体的かつ多面的に考える力を養うことがねらいである。

第1話「三匹のこぶた」

オオカミを殺害したこぶたが正当防衛で無罪か、それとも計画的犯行で有罪かを問う。



第2話「カチカチ山」

敵討ちでタヌキを殺そうとしたウサギを刑務所に送るか、それとも執行猶予にするかが争点である。



第3話「白雪姫」

被告人の王妃が犯行を全面否定する。「白雪姫に会いに行っただけなんかない!」。王妃は白雪姫を殺そうとしたのか、それとも無実なのかを考える。



第4話「アリとキリギリス」

親友のキリギリスに食料を分け与えず餓死させたアリは、保護責任者遺棄致死罪で有罪か、それとも無罪かを考える。



第5話「舌切りすずめ」

舌を切られた仕返しにおばあさんを殺害しようとしたすずめ。しかし、容疑を全面否定。有罪か無罪かを考える。



第6話「浦島太郎」

「地上に帰る」と別れを告げた浦島太郎を、玉手箱を使って殺害しようとした乙姫を刑務所に入れるか執行猶予にするかを考える。



第7話「ヘンゼルとグレーテル」

魔女を殺して金貨を持ち帰ったヘンゼルとグレーテル。強盗殺人か、それとも魔女殺しは正当防衛であり単なる窃盗に過ぎないのかを考える。



第8話「さるかに合戦」。

カニの親子に、硬い青柿を執拗に投げつけ殺害した猿。罪を認める猿を死刑にするかしないか考える。



4 授業展開

展開	学習内容
1 学習の目標	裁判員制度を学びつつ、判決を分かりやすいPower Pointで作成し、説得力あるプレゼンテーションを実施することを知る。
2 学習の見通し	判決が出る直前で話が終わるので、証言は信用に足るのか登場人物たちの言い分をもとに、自分なりの判決を考えることを知る。
3 学習の展開	(1) 本来の昔話の先入観はなくして見るよう注意する。 (2) 「昔話法廷」を見る。 (3) ワークシートに判決に繋がるキーワードを記入させる。 (4) 自分の判決を出させる。(グループで判決を出させる) (5) プレゼンテーション用にPower Pointをまとめる。 (6) プレゼンテーションする。 (7) 裁判長(教員)が多数決で判決を下す。
4 学習の振り返り	一連の振り返りをする。

5 実践

生徒一人一台パソコンを使用でき、教員パソコンの映像をプロジェクターでスクリーンに投影できる。これにより大きなスクリーンで生徒全員が一同にインターネット配信で「昔話法廷」を見ることができる。もちろん生徒のパソコンでも「昔話法廷」を観ることができるので、PowerPoint資料作成時に動画からPrintScreenやSnipping Toolを使用し画像として取り出すことも可能である。1回目は「三匹のこぶた」裁判を個人でPowerPoint作成しプレゼンテーションした。



2回目は「ヘンゼルとグレーテル」裁判を3～4名のグループで実施した。



6 アンケート結果

1 今回の授業で裁判員という立場を理解することができましたか。

はい100%	いいえ0%
--------	-------

2 どちらの話が判決を考える上で難しかったですか。

「三匹のこぶた」0%	「ヘンゼルとグレーテル」100%
------------	------------------

3 PowerPointを作ることは難しかったですか。

<個人>	難しい22%	普通78%	簡単0%
<グループ>	難しい22%	普通67%	簡単11%

4 プレゼンテーションすることは難しかったですか。

<個人>	難しい44%	普通56%	簡単0%
<グループ>	難しい67%	普通22%	簡単11%

7 まとめ

現実の世界ではPowerPointにまとめて裁判員の話し合いを進めることはない。しかし、なぜ「有罪」「無罪」という結論に至ったのか、高校生同士でも分りやすく説明する良い方法ではないかと感じた。生徒たちも事前にPowerPointで資料作成ができ、思っていることを上手く説明できたという意見がほとんどであった。今回の内容は、生徒一人ひとりが参加して発表することが必須である。そしてよく考えなければ判決を出せない。つまり、能動的になったアクティブ・ラーニングが実施できたと考える。

参考文献 NHK for School 番組表< <http://www.nhk.or.jp/school/>>